みんなの山あげ

創刊号

烏山山あげ保存会
〈事務局〉
那須烏山市生涯学習課
〒321-0595
那須烏山市大金240

令和７年　当番町　泉町　〈7月25～27日〉

山あげ行事 盛大に行われました

令和七年 山あげ行事を振り返って

抜群の晴天に恵まれた3日間

例年、山あげ期間中の一日か二日は夕立などの雨に降られ、16から18場所で行う山あげのうち、何場所かが室内の公演となることが常であったが、今年は一度も雨が降らないという奇跡的な天候に恵まれた。その分、日中の気温が上昇し、猛暑の中、若衆や芸能部の人達には厳しいものがあったと思われ、改めて暑さに負けず素晴らしい山あげを披露していただいたことに、心から敬意を表したい。

6万3千人の入込数

期間中3日間の入込数は6万3千人で、コロナ前の令和元年に達成した8万人は超えられなかったものの、昨年より1千人の増加となった。ただ、日中においては猛暑の影響により客足が落ち込んだものの、夕立も無く、しのぎやすい夕方以降の観光客が増えたものとみられる。

経済効果は3億4千3百万円

3日間の入込数や宿泊数を基礎に、県の統計課の試算表を活用して計算した結果、経済効果は3億4千3百万円と算出された。また、山あげ会館前の「おもてなしコーナー」における売上げは1千1百万円を超える、対昨年比1百10万円の増加となった。

創刊によせて

烏山山あげ保存会
三森 文徳

この度、山あげ保存会会報「みんなの山あげ」を創刊するに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

山あげ保存会は４６０年余の歴史を誇る山あげ行事の、維持継承を目的に活動している団体ですが、これまで保存会に直接係わる多くの方々はもとより、那須烏山市民の皆様や市内外の多くの企業・団体に支えられてきました。

しかしながら、保存会の活動が広く理解されているかと問うと、必ずしも知っていただく努力をおこなって来なかったとの反省にたち、この度、会報を発行することといたしました。

保存会としましては今後も、少子高齢化が進む本市の中で、山あげ行事が末永く続くため、最大限の努力をして参りますが、皆様方には引き続きのご支援、ご指導を賜りますよう、改めてお願い申し上げ、創刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。

当番町から一言

当番町 泉町筆頭世話人
菊池 卓也 さん

まず、一年間山あげの準備を一緒にやってきた、泉町若衆と白治会の皆様に感謝申し上げます。お陰様で、三日間一度も雨に降られず、当番町としての役目を果たすことができました。日中は35度を超える猛暑でしたが、一枚岩となって乗り越えたことは、一生の思い出となりました。ありがとうございました。

後継者育成事業の紹介

保存会

烏山高校 烏山学

県立烏山高校（以下「烏高」）では、地域の課題から学ぶキャリア教育として「烏山学」という烏高独自の授業を行っており、その授業の一環として、山あげ体験学習を毎年実施している。今年は、6月1日に烏高1学年113名の生徒が、当番町泉町若衆と保存会芸能部の指導のもと、山あげ体験学習がおこなわれた。

生徒達は2班に分かれ、第1班は今年の山あげ本番に使用する出来たての山を実際にあげる体験をおこなった。泉町若衆が丁寧に手順を教え、生徒の中から選ばれた「木頭（きがしら）」の拍子木により山をあげる体験をした。

また、もう1班は、芸能部が山あげで実際に使う衣装を身につけたり、刀を持っての大立回りなどを、楽しく学んでいた。

保存会としては、山あげの後継者育成は大きな課題であると考えているため、今後も地元の高校生が山あげを実際に体験する機会を提供していただいている「烏山学」を、毎年、継続実施できるよう支援していく考えであり、生徒達の中から将来の「山あげ担い手」が育ってくれることを大いに期待している。

烏山小学校 山あげ体験事業

烏山小学校（以下烏小）では、今年度より学校の新規事業として、「山あげ体験事業」を立ち上げ、総合的学習の時間を活用して山あげを学ぶ活動が始まった。

この事業は、山あげの「はりか山」はどのような構造になっているのか、山あげで演じられる歌舞伎はどんなものなのかなどを烏小の子ども達に肌で感じてもらいたいという、実際に山あげ行事に携わっている保護者の要望をうけ、学校側の温かいご理解のもと行われることになった。

最初に、山あげに携わっている保護者が、山あげの歴史や山あげに携わる若衆が一年間にどんなことをするのかなどを、教室で学ぶ座学が実施され、児童達は熱心に話を聞いていた。

また、別の日に本番の山あげで実際に演じられる「将門」という歌舞伎を、芸能部の常磐津を演奏する人達にお越しいただき、同じく芸能部に所属している烏小5年生の齊藤果歩さんと4年生松本幸之助さんに演じてもらう舞台を、全校生が烏小体育館で鑑賞する授業をおこなった。

保存会 芸能部の活動

浅草神社神楽殿で「将門」を披露

歌舞伎文化繁栄の地でもある国際観光都市浅草で3月22日におこなわれた「第16回浅草こども歌舞伎まつり」に、今年も保存会芸能部が招待され、芸能部の子ども達が浅草の「まるごとにっぽん」広場前から、浅草神社神楽殿までの約300mを練り歩き、神楽殿の多くの観衆の前で「将門」を披露し、盛大な拍手をいただいてきた。

宇都宮駅で山あげPR

7月21日には、JR宇都宮駅西改札口の正面で、乗降者に今年の山あげ行事の日程表が入ったパンフレットを手渡して「是非、今年の山あげを見にきてください‼」と元気にPR活動を自主的におこなってきた。（写真）

山あげ祭フォトコンテスト ～ 120点の応募 ～

今年の山あげ祭フォトコンテストには、遠方では岩手県一関市の方などから、昨年を上回る120点の応募があり、10月28日に審査会がおこなわれた。

山あげの俳句募集 ～ 684句の応募 ～

山あげ俳句全国大会実行委員会では7月1日から9月30日の期間で山あげを季語にした俳句を募集し、684句の応募があり、11月14日に入賞者が決まる。

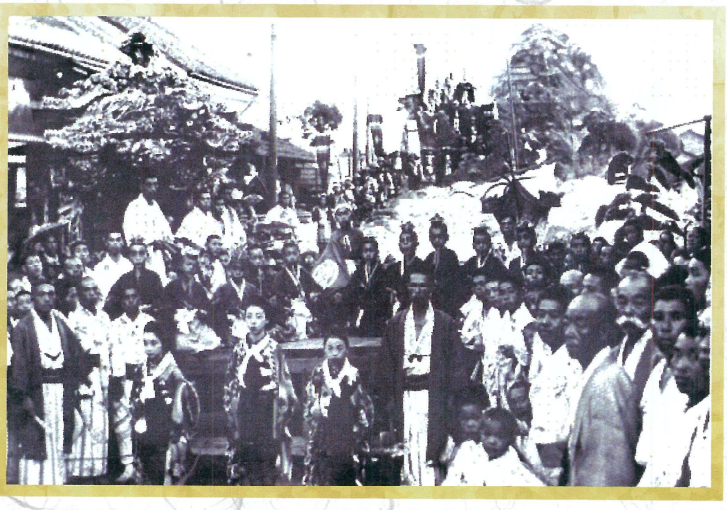
入賞した写真と俳句は、次回会報に掲載予定

山あげに関する古い写真や文書を探しています

保存会では、山あげの歴史を後世に残すため、山あげに関する写真や文書を探しています。もし、ご自宅に保管されているものがあった場合にはご連絡下さい。

■ 連絡先：那須烏山市生涯学習課
☎ 0287−88−6223

〈題字〉芸能部・吉川和穂さんの揮毫（きごう）

山あげ今昔物語

今回掲載した写真は明治42年（1909年）7月22日の当番町仲町の写真で、残されている記録によれば芸題は「船上川」とあり、登場人物は「仲町の子供」と書かれている。舞台に座っている12人の子ども達と、すその広い前方の山の左サイドと、後方の山の頂上付近まで20人近い子ども達が並んでいる。